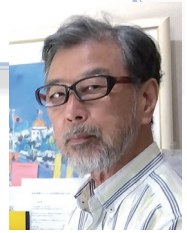




国際化の最前線から

国際化の最前線から



国際化に結びつく地域の話題と ラジオの活用②

～自治体の国際化を考える、世界とのコミュニケーション～

株式会社 INCOM 代表取締役／プロデューサー 筒井 潤

先月号のコラムでは、ラジオのメリットや多言語で伝えることの重要性、そして多言語放送に対する考えを紹介した。今回は一歩進んで、具体的な取り組みのアイデアを提案しよう。

小さなエリアのラジオ局

弊社では、自治体が発信する住民向けの案内や告知を各国の言葉で伝える多言語放送を始めようと、各地のコミュニティーラジオ局と取り組みを進めている。デンマークでは、地域に密着した“小さなエリアのラジオ局”が、それぞれの地域で多言語のプログラムを制作して放送しているそうである。番組では、住民でなければ気が付かないような身近な問題に関して地元リスナーが問題提起の投稿をし、それに対して他のリスナーが番組を通じてさまざまな提案をしたりするのだという。例えば、地元の漁師から「古くなった漁網が海底にたくさん沈んでいて、船の故障の原因となっている。何か取り除く方法を教えて欲しい」と投稿があったり、またあるときは「子どもがお弁当を残すので困っている」と投稿があり、これに対していろいろな提案が番組に届くそうである。この漁網については、今では、地元自治体が毎年沿岸部の掃除などを行なっているという。ラジオ番組が、単なるリスナーへの一方通行の放送ではなく、相互交流の場として機能しているのだ。

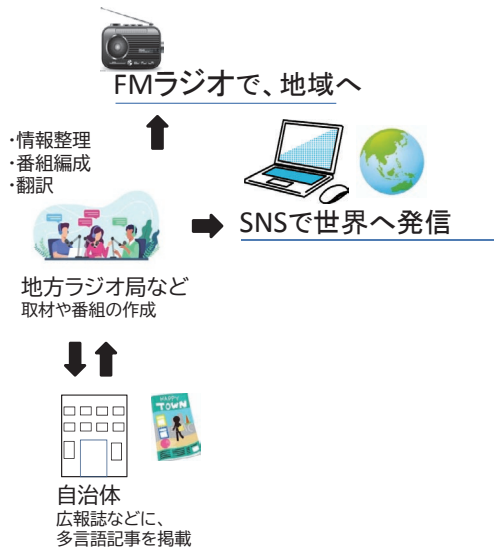
こうした番組を日本においても作成し、さまざまなバックグラウンドを持つリスナーが参加できれば、立派な国際化と言えるのではないだろうか。

グローバルな視点の SNS

この“小さなエリアのラジオ”番組は、地域住民のコミュニケーションの場となるだけではない。番組を多言語で作成し SNS を利用することで、世界に向けてそのまま発信ができるという可能性をも秘めている。SNS は、音声にとどまらず視覚的情報の発信もできるため、より伝わり方がリアルでもある。その際には、地域に関する情報提供だけでなく、産業や農産品、観光名所についてもテーマとなるだろう。

この番組を通して、国外からでも日本の小さな地域の様子をうかがい知ることができる。日本に住んでいる外国籍住人は、日本の良さをもっと深く感じることができるだろう。そうなれば、国際化の道筋が、広く、長く伸びてゆく様子が目に浮かぶようである。

ある地域の暮らしにかかわるニュースが、いくつもの国の言葉となって世界中に届いてゆく。弊社は、こうしたラジオと SNS の活用を通じて、地域の国際化の道づくりの一端を担っていきたいと考えている。



プロフィール

筒井 潤 (つつい じゅん)

- ・ 1947 年東京生まれ
- ・ ビジネス映像の制作・海外 CM 研究
- ・ 観光バス内で行う「バス旅エンターテイメント」バス旅ラジオ、バス旅ブックの発行
- ・ バス旅 TV 番組制作プロデューサー
- ・ 映画館で学ぶビジネス講座 TOHO シネマズ「School by Film Method」の制作 (ワールドビジネスサテライトで紹介)

ご相談は

<https://incominc.co.jp/>
または 070-3850-6308 まで